



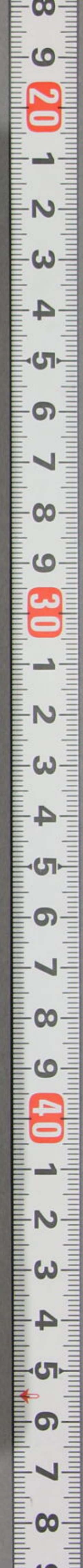
鐵槌

下之三

谷

九十号

正
四
分



て大事といそぐべし
御方名をすして
ことばをひききり

Base text: 其のうへに 纂經と爛柯經と有り
中ふ捨不取大と云ふ事あり

て人へいきてかきつるものあり

をよむべし

ことばをよみとて

るをよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

ことばをよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

をよむべし

るる人 紙着の多き使 西序

と下の中にもまじりたる小貝拾巻

りののく徳のいふあつらん

そくかき進するもの月

唯以一大事因縁故出現於世

論語陽貨篇 法華經云世尊

敏之兒の切わりとを指指とる文おも侍りあはれ

と然いづらさるるふ。一大事因縁とてあはれ

今日本にまゝあつらんとはあはれ

いとたをて出まらぬとてあはれ

人いづらまわりてはあはれ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

金巻巻

をらんと紙着の多き使 西序

と下の中にもまじりたる小貝拾巻

りののく徳のいふあつらん

そくかき進するもの月

唯以一大事因縁故出現於世

論語陽貨篇 法華經云世尊

敏之兒の切わりとを指指とる文おも侍りあはれ

と然いづらさるるふ。一大事因縁とてあはれ

今日本にまゝあつらんとはあはれ

いとたをて出まらぬとてあはれ

人いづらまわりてはあはれ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふふいふいふいふいふいふいふいふいふ

事いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

百工也 尚書五子之歌予視天下愚

丈思婦不能勝予 文字の法伴暗證の法伴

止觀第五暗證禪師誦文法師

つて坐禪即ちつて暗證禪師

を坐禪工夫を専らして教相

まくららるる

つて成べし文字の法伴

のもしもあつていふ

しあつてさう物だ

通二作達

人太觀今物無不可

通二作達

人の暮るの事びおさうたふかひは

あれた人のけむにさうのめげさうの

もつて智ふ及ぶはさうのさうのさうの

もつて我道試人のさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

もつていふらりさうのさうのさうの

のまらりさうのさうのさうの

丁大映形万大映声丁大傳虚

万大傳虚がふりさうのさうの

氷の舟 澄けつてさうのさうの

雪止が霜 けつてさうのさうの

又ゆきさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

さうのさうのさうのさうの

又ふかひしたまふつらうもなほうみ
けくもしくぬかきしこゝろ金部なほうみ
のぶきみせしめりしむてなまむひんかじ
かじふちるふふりそらうもあつらん
のうさうふあつたあつていふかひのえら
かえふかえらふかへんはあふはしあ
らんふのまふらふれんはあふのあま
掌の上のあ 木眼才一の阿那 律三千世界とくくの掌のあ 卷摩草とくくしと仲 名住一あ 中庸白治國其如示諸堂乎 久我内大臣 通基公也此殿を おれらふり あふひり あふひり

初巻の男二と一人もさそいおかりま

とまへてりおかりたあふてりおかり

は糸よりたりし多時洋あやんといふ

東大寺の神樂と内巻と

此劇との後久保の大臣

海又唱道亦阿警闘か

よく真言一八阿時のニまの

五御門相國 定實公也久我

の庶流

敬可脚 前漢列傳十七張

孝主得賜天子旌旗從行

乘万騎出稱警入言趣庄

師古曰警者戒肅也趣止行

人也言出入者互文乎出亦有

趣 漢儀注皇帝車駕動左

侍帷幄者稱警出殿則傳脚止

入清道也讀會脚本作趣

四糸とす毛刺傳奏の神より...
御祭神 天照大神 天照大神...
十月十日 北野 寛弘元年十月十日
諸社 拾芥云根尾 拾芥云根尾...
勅勅 天子の神あり...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...

物部之部 御祭神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...
御祭神 天照大神 天照大神...

郡人也延喜十三年九月三日

生焉十一山叢山師事理山延

長六年礼尊意登壇受戒云

康保二年八月神天台座主預

山發者二十年天元四年為

大僧正兼法務取轎車永觀

三年正月二日唱彌陀而滅

年七十四賜諡慈惠 朝庭

の慈惠より諡号といふ

山門として慈惠大師といふ

の傳教弘法慈覺智證の外に大師といふ

の律令といふといふ人よりいふは

のほかにいふといふ人よりいふは

けしきといふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

しは曹小いそりてさういふの聖代

の起法文につかえてこころりて改

むとせばけすはたさうりて又法

令ふは火に極とえとてあつて

おれあふべ

法曹

明法家といふ法曹といふは

の職原

徳大寺の右大臣殿 公孝公

の時中門を使廳の譯といふ

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

の使廳 檢非違使の廳也

彼山者 俗曰回雁

和名曰爾雅集注云 馱吞葛

並反出而嚼生曰 齧

郊牛の口をよとていふ

ふその角を齧るのこいふ

とていふ

春秋傳 魯のりていふ

の牛をもいふ

父の相國 公孝の父大政大臣

實基也

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

のそとにいふといふ人よりいふは

龜山殿

つくりつり

舊のまこと

龜山殿をえらまんとて地がひれ

みたり

はせ

のふとあつらひぬをとも

王云とん法

りあつらひぬをとも

俗に鬼神は後述ありしよ

とひかきとひかきまじり

左傳神聰明正直

と勅回をまじり

而壹者也地の時とす

とあつらひぬをとも

ととめすり猶野詳也

一人王をこころん

虫田を居とて

のそのまはつらひぬをとも

神の邪まじり

みかみかみかみかみかみか

棟をたし地を

たすひかきまじり

の中之りまかの

のまはつらひぬをとも

まむらふまむらふは花菴院弘舞傳

つしこひはひわらりまむらふ

とまなしてとりまむらふ

りりゆりゆりまむらふ

世説新語補十一云鐘毓早
弟小時值父晝寢日其偷服
藥酒其父時覺且託寢以觀
之毓拜而後飲會而不拜既
而問毓何以拜毓曰酒以成
禮不敢不拜又問會何以不
拜會曰偷本非禮所以不拜
異本云孔文舉有一子大者
六歲小者五歲書曰父眠床
頭盜酒飲之大兒謂曰何以
不拜答曰偷那得行也

まむらふまむらふは花菴院弘舞傳

つしこひはひわらりまむらふ

鉄道卷四

喚子鳥 古今集三鳥の其一也相傳多くハ難知之

招魂法 楚辭注曰招魂者宋玉之所作也古者人死則

便人以其上服并屋履危北面而號曰皇其復遂以其衣

三招之乃下以覆尸下略之人たものたふり何れをいふと

和名曰 招會以手曰招以言曰召

唐韻云 鶴 音空 漢語 抄云 羽江 惟身 海篇云 鶴 音夜 鳥名

いさひのりとして 厥勢あり

三畧柔者徳也剛者賊也 又曰 厥多則身蹶

賊おかりて 阿房の昇鏑 五石金塊珠礫し子羽一炸

火驃山三月の紅也 又わりのて 莊子曰孔子再

逐於魯窮於齊伐樹於宋既 於陳蔡不容身於天下

孔子とけいりわりの 論語道不行

不行 庭釋淳於海云 道徳也

頻問不幸なりと 論語顔回 不幸短命而死

君の徳也 史記韓非傳 衛彌子瑕の車の車よのり機

餘に君小あらず寵を喜て い二事入ある存して侍り

て馬嵬の鬼しるなり ぬきころりて 彭寵 梁冀

柳公權 張之定々のいとし 人の心とて 凡志卒心粟七

敵しるりみこころし 古今甚 多一朋友のあつと又わり

約とてあひひは 張耳陳餘 舛頸の交としすいれと忽殺

とわりて張耳韓信と陳餘 と殺す又朋友の道始終とわり

朱子に云ふに朱穆絶交論と作す 劉孝標廣絶交論とす

此二句 連續なる詞なりをいふ 何れとていふと 抱かす時をいふ

山谷作東坡賛曰其愛之也引之 西掖 壘坡 是亦一東坡非亦一東坡其惡之也 扱之

於鯤鯨之波 是亦一東坡非亦一東坡 云々

古今集

いさひのりとして 厥勢あり

三畧柔者徳也剛者賊也 又曰 厥多則身蹶

賊おかりて 阿房の昇鏑 五石金塊珠礫し子羽一炸

火驃山三月の紅也 又わりのて 莊子曰孔子再

逐於魯窮於齊伐樹於宋既 於陳蔡不容身於天下

孔子とけいりわりの 論語道不行

不行 庭釋淳於海云 道徳也

頻問不幸なりと 論語顔回 不幸短命而死

君の徳也 史記韓非傳 衛彌子瑕の車の車よのり機

餘に君小あらず寵を喜て い二事入ある存して侍り

て馬嵬の鬼しるなり ぬきころりて 彭寵 梁冀

柳公權 張之定々のいとし 人の心とて 凡志卒心粟七

敵しるりみこころし 古今甚 多一朋友のあつと又わり

約とてあひひは 張耳陳餘 舛頸の交としすいれと忽殺

とわりて張耳韓信と陳餘 と殺す又朋友の道始終とわり

朱子に云ふに朱穆絶交論と作す 劉孝標廣絶交論とす

此二句 連續なる詞なりをいふ 何れとていふと 抱かす時をいふ

山谷作東坡賛曰其愛之也引之 西掖 壘坡 是亦一東坡非亦一東坡其惡之也 扱之

於鯤鯨之波 是亦一東坡非亦一東坡 云々

いさひのりとして 厥勢あり

三畧柔者徳也剛者賊也 又曰 厥多則身蹶

賊おかりて 阿房の昇鏑 五石金塊珠礫し子羽一炸

火驃山三月の紅也 又わりのて 莊子曰孔子再

逐於魯窮於齊伐樹於宋既 於陳蔡不容身於天下

孔子とけいりわりの 論語道不行

不行 庭釋淳於海云 道徳也

頻問不幸なりと 論語顔回 不幸短命而死

君の徳也 史記韓非傳 衛彌子瑕の車の車よのり機

餘に君小あらず寵を喜て い二事入ある存して侍り

古今集

左右逢其源之。徐不疾得之至而應於心。不為也。列子曰楊朱曰古之人損一毫利天下不與也。人損一毫利天下。孟子曰楊子取為我。拔一毛而利天下。不為也。問書秦誓。惟天地萬物。父母惟人。萬物之靈。蔡氏傳云。天地者萬物之父母也。萬物之生。惟人得其秀而靈。具四端。備萬善。知覺獨異於物。而聖人又得其最秀而最靈者。孝經曰。天地之性。人為貴。孔安國傳云。凡生天地之間。皆氣之類。人最其貴者也。

靜曰。字。五。分。內。事。又曰。天。地。何。所。窮。又曰。東。西。海。聖。人。同。此。心。同。此。理。南。北。海。聖。人。亦。同。又曰。人。在。無。窮。之。事。顏。面。不。過。怒。程。子。曰。顏。子。怒。在。物。不。在。已。故。不。過。也。不。在。血。氣。則。不。過。若。舜。之。誅。四。凶。也。可。怒。在。彼。已。何。與。焉。如。鑑。之。照。物。妍。媸。在。彼。隨。物。應。之。而。已。何。過。之。有。歐。陽。詹。詵。月。詩。序。月。之。為。詵。念。則。敏。氣。霜。大。寒。夏。則。蒸。雲。天。熱。雲。蔽。月。霜。侵。天。蔽。與。侵。俱。詵。詵。秋。之。於。時。後。夏。先。冬。小。月。於。秋。季。始。孟。然。十。五。於。夜。又。月。之。中。始。於。不。道。則。寒。暑。均。取。於。月。數。則。

蟾兔圓況埃壙下流大器格
蟬娟相得仙傳幸一傳昇東
林入西樓肌骨與之疎涼神
氣興之清冷

火燭和名比多收和名
秋の月をがらりあき先て花の
つとせと月かくとわもてさひ
のほら人かまはなうるをまじ

想文かんをくし楽の女たことあつたのなふあらん
しつ相存道に文字のうらむ者のを衡大に
あししつらうて人かまはなうるをまじり大
と道存との回忽を回轉く回轉やんたさひよめふ
さふらうる夷漢は伏して後おまわつてあつらふらう

年色付 大佛陸奥守也

東鑑云治十五年自弘安

十年至正安三年北条五

郎時忠後改宣時

系圖云時政時房朝直宣

時執權永恩寺殿

最明寺入道 時頼也上方

異體あり

常任さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

さるる也

くと養ひたり

平定時おのほむのほむるなり

最めち入道あらしひあまふ

りるるるるるるるるるる

ひこれのぶくてもく場し福ふ

使もつて世世あまのふらあ

わ秋ふしはふくはふくはふ

しらくのもくはふくはふく

きんくはふくはふくはふく

らむくはふくはふくはふく

かむくはふくはふくはふく

かむくはふくはふくはふく

みそのあつさるるるるるる

ふふふふふふふふふふふ

とゆりふふふふふふふふ

鶴新 東鑑第二云後合泉

院時伊豫守源朝臣頼義奉

執伐安倍負任時有川所之

旨康平六年八月廣勸請石

清水建瑞離於當相模國由

比卿下詔詔未保元年二月

建陸奥守義家加修復治

美四年十月頼朝京外林

御之北山攝官庶後遷之

足利左馬入道 東鑑四

十四云建長六年十月足利

左馬入道正義病拙已危急

之間為訪之相列命前被第

給二十一日入道正四位下

行左馬頭源朝臣義氏

卒 義氏者義康之孫

義康之子母几余時政之女

也 日本紀云 養食とみあて

いり俗しるいりしる久くの湯ゆとと十じゅうふふりり其その房ぼう乃なりり
[献] 祀記一獻之礼賓主百百
拜曲礼君子之飲酒也二爵二
而色滿如也二爵而言言斯斯
三爵而油油以退退
しりあらし 慰なぐさしあらし
隆辨僧正 鶴つる冊別當也
宗尊將軍御木例之時致致
折禱加持依よ為効驗為まじ恩おん
賞并領あづか濃國岩滝郡被任僧僧

いり俗いり久の湯と十ふりり其房乃り
[献] 祀記一獻之礼賓主百
拜曲礼君子之飲酒也二爵
而色滿如也二爵而言言斯
三爵而油油以退
しりあらし 慰しあらし
隆辨僧正 鶴冊別當也
宗尊將軍御木例之時致
折禱加持依為効驗為恩
賞并領濃國岩滝郡被任僧

位ゐをを今いまううととおお拘こははななじじ時ときにに賊ぞくつつらら約やくありありととありあり
賊ぞく然しかららくくががららいいたたれれよよととささふふののいいかかははおお教きょうをを
ひひききととままああらら我われととががららははとといいひひ念ねんををここままりりとと
かかつつじじととおおささへへくく小せう要やうとといいふふららははおお後ご後ごにに
ああららししててつつひひ用ようわわととああららくく負おん苦くととああららとと
晋魯しんろ魯ろ襄じやう錢せん神しん論ろん曰い親しん愛あい規き
兄けい字じ曰い孔こう方ほう失しつ之し則すなは貧ひん窮きゆう
得とく之し則すなは富ふ強きやう無む翼よく而して飛と無む足そく
而して走そう解かい嚴げん毅ぎ之し類るい開かい難なん殺ころ之し口くち
錢せん多た者しや處ち能に錢せん少せう者しや居く後ご後ご云い
史しののカカののカカののカカ 易い乾けん卦け曰い
水すい流りゅう濕じつ火くわ就じゅう燥そう雲うん從じゆう風ふう
從じゆう虎こ孟めい子し曰い猶じゆう水すい之し就じゅう下げ也なり
冥めい飲いん聲しやう色しき 音いん樂らく乃なり也なりとと聲しやう
色しきとと云い
抑おさ人ひと々々 ととししよりより正せい大だい倫りん長ちやう公こうのの詞し
論語注曰 抑おさ反はん語ご詞し
抑おさ人ひと々々 ととししよりより正せい大だい倫りん長ちやう公こうのの詞し
論語注曰 抑反語詞

四條黃門

笙吹人也

龍秋 豊原氏樂人の笙と吹家也地下(豊筑後經秋の先祖也豊原氏と略して豊と云)

四條黃門令せしめていり。龍秋

早下の詞也

通よりいへる人ともなれるらん

短盧

過言の義

目よりいへる人ともなれるらん

荒凉

常の笛の音

めて思慮のなるに振蕩のなる

十二律

惣而笛の事吹人

聞入ともいひぬ

穴の敷いふと云やゆるりし

ふもとぬどぞぬ千乃元々平調元の元

鬼種調元と云々々の元夷種調元

音後調元と云々中の元盤法調中と云

しひは林仙調元ありてふ

うらたぬ乃元の

スズク

は元とて寸ハ必の

く

子日後生可畏焉短來者之

後生以と云と云と云と云と

わりの節ハ吹る

物まれば元と云は傳の

ふかとも元元元

さへいひ

し

し

し

し

し

呂律のよめいっか

首楞嚴經曰譬如琴瑟笙篳

琴瑟雖有妙音若無妙指終不能發汝與衆生亦復如是

失いあらずと云

天王寺 推古天皇の御宇

聖德太子建之 多聞持國 增長廣目の四天の像と安置とすゆへは四天王と云く

伶人 音樂丁者と云黄帝の時伶倫と云樂人の名なりて傷をり伶人と云まり

六時堂

黄鐘調のこころあり

八月十五夜のまゝは源頼朝のふりて八月のまゝは

淫樂會 二月十五日

聖天會 太子の忌日二月九日

尚書云公音克諧無相棄倫六時堂の前は持之

無常の調子 平家物語

祇園精舎の無常院

大藏十覽 第一二口備太極越

須達多長者建之云云

祇陀太子の園と須達と云

くえて建之故祇園と云

何事と云色出たりと云

也。天王寺の舞樂のこころ

らざりしと云大なるの伶人の

當の樂はく國と云くあせ

のひりてをくそのかり

の園より行ると云

の舞の前は持之

の無常の調子

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

の園と云く

の舞のこころ

西園寺 拾芥云衣笠岡良

太政大臣公經公家

洋金剛院 つまのあり

太泰の東は跡あり

拾芥云本名天安寺待賢

門院御建立也浄の字と

はと云と云あり法金剛

院ハ勝蔵の推野あり

建治弘安 皆後宇多院の

年号

まつりの日 安永のまつりの

放免 東鑑二十三建保

六年六月將軍家實朝任

太將為持賀余鶴置隨共

江判官能範布衣冠常緒

細尾辨太刀郎等三人雜也

四人調度懸一人放免四人

ののさるるあり千よつて

くしサいあれる約つて

ていさつりか人かあり

職原下菴非 遣使の下1道志有法明道 輩六位時佐衛門志郎蒙使 宜旨也凡志者奉行使廳諸

事道成りたるものか... 誠すじの地き... 多又助 久資と云ふるを

多又助 久資と云ふるを

樂人也多氏也今も伶人

多の氏あり多氏の系あり

知事の大社とも云ふ

子律ハ并耳余と多氏乃

通憲入道 少納言入道信

西也詳道は通する人

儀禪師 東鑑六文治二年

三月百預列奏静及母儀禪

師自京來干鎌倉下略

仏林乃の縁 仏林の中身縁記

白拍子の根元 源平盛衰記

十七云世は白拍子と云ふ

わり漢家了八虞氏楊貴妃

王照君々々ソハハ皆是白

拍子也我朝ハ鳥羽院御宇ハ... 源の先行 河内守大監物源... 信濃前司行長

中縁と云ふ... 論及の巻よめられ... 一藝ありものトハ下

板山門のふと

九郎判官

蒲冠者 從五位下三河守

之間号蒲冠者賴朝弟也

とていふもとるにむのせり。蒲冠者のことか

つるはらるる事とあらう。せり。武ま

事なる。彼は仏が中つるよの武ま今の琵琶は

うせらり。彼は仏が中つるよの武ま今の琵琶は

六時礼讚 晋の惠遠法師蓮社をひらいて蓮花漏と

の権與くと唐の善導六時礼讚得とそひあめと日夜

の勤行とと安樂の作ありと

家の人とと

安樂 蓮の芽と住蓮安樂と云二人あり後ち羽院の時

金抄卷四

家物縁とつらりて。ま修してひらる

盲目小ててささる。板山門の

と試とんゆとくせり。九はあま

とていふもとるにむのせり。蒲冠者のことか

つるはらるる事とあらう。せり。武ま

事なる。彼は仏が中つるよの武ま今の琵琶は

うせらり。彼は仏が中つるよの武ま今の琵琶は

六時礼讚 晋の惠遠法師蓮社をひらいて蓮花漏と

の権與くと唐の善導六時礼讚得とそひあめと日夜

の勤行とと安樂の作ありと

家の人とと

安樂 蓮の芽と住蓮安樂と云二人あり後ち羽院の時

別時合伴とすの六時礼後て

留して唐の善導郡集

安樂と罪よとる人考

竹法名如願 大泰 廣隆寺也

千本の釈迦念佛

文承 龜山院年号

如輪上人

妙觀 元亨釈書云勝尾寺講堂觀音像

八日比生妙觀刻之千臂千目

莊嚴端嚴又加四天王像凡五

尊三十日而成八月十八日妙

觀合掌而化觀音之灵應也

仲芳攝列勝尾寺募緣疏也

妙觀雕像のふととと

五條内裏 後醍醐院時皇居

藤大納言 鍛錬口わい本紙と

おかしせり。一念の念仏のま初は後

院の中央よりまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

とつる。法喜房はまはり。法喜

法喜房

九

のきよはばいかに... (Main handwritten text on the right page)

園別當入道 基氏卿天福二年十一月十七日上辞狀出家法名四空

庵丁 日本庵丁者の... (Left side of the handwritten text block)

わら人のしんふ... (Middle and bottom of the handwritten text block)

佛説三身壽量無邊經曰文殊白佛言我等從昔聞如來說法如來何佛聞此說法佛告文殊言過四十一重內大院兼大毘盧遮那說法文殊復言妙覺地毘盧遮那無始無終一心一念本佛說法世尊復言無始無終一心一念本佛乘無心無念本佛說法文殊重白佛言無心無念本佛何佛說法世尊復言無心無念本佛上更無佛陀無即佛無後佛無心無念本佛以不思議為体無本去來無二身性無十界性云云今盡不記

寛文十二年... 洛下 西澤大岩... (Left side of the page with date and location)

